

# 株 主 各 位

東京都港区赤坂九丁目7番2号  
**株 式 会 社 メ ッ ツ**  
代表取締役社長 永 田 典 久

## 第20回定時株主総会招集ご通知

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当社の第20回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成20年6月11日（水曜日）午後5時までに到着するよう折り返しご送付くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

### 記

1. 日 時 平成20年6月12日（木曜日）午前10時
2. 場 所 東京都港区赤坂九丁目7番1号 東京ミッドタウン  
ザ・リッツ・カールトン東京2F「グランドボールルーム」  
(末尾の会場案内図をご参照ください)
3. 目的事項  
報告事項 第20期（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）  
事業報告および計算書類報告の件  
決議事項  
第1号議案 剰余金の処分の件  
第2号議案 取締役4名選任の件

以 上

---

当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、代理人によるご出席の場合は、委任状を議決権行使書用紙とともに会場受付にご提出ください。（代理人の資格は、定款の定めにより当社の議決権を有する他の株主1名に限ります。）

添付書類および株主総会参考書類の記載事項について、修正すべき事項が生じた場合には、当社ホームページ（<http://www.metscorp.co.jp/>）において、修正後の事項を掲載させていただきます。

## 事業報告

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

### 1. 会社の現況に関する事項

#### (1) 事業の経過およびその成果

当事業年度のおが国経済は、企業収益の改善に足踏みが見られますが設備投資は増加基調で推移し、全体としては緩やかな回復基調にあります。しかしながら、原油価格の動向や米国のサブプライムローン問題を背景とする金融資本市場の変動などを背景に景気の下振れリスクが増しており、その動向には留意する必要があります。

不動産市況におきましては、サブプライムローン問題から端を発した信用収縮による資金の流れの停滞、また平成19年9月30日に施行された金融商品取引法を起因とした中小不動産ファンドの投資意欲に減退傾向が見受けられ、先行きの不透明感が増してきております。

社会環境におきましては、刑法犯の認知件数は年々減少してきており、平成19年通年においては10年振りに200万件を下回りましたが、年間140万件前後だった昭和期に比べ、依然として高い水準であり安全で安心な社会とは言い難く、国民の治安に対する不安にも根強い状況が続いております。

このような環境の中で、当社は独自の情報ネットワークと市場の流れを読んだ高い精度のマーケティング力を駆使し、速やかにかつ柔軟に対応・決断しこの局面を打開してまいりました。

セキュリティリアルエステート事業におきましては、当社開発のセキュリティシステムの導入や物件設備および管理の効率化等、蓄積している不動産事業の企画・開発力を駆使することで付加価値を高めたオリジナリティある不動産物件の賃貸・管理運営および売買等から構成されており、当事業年度においては強固な財務基盤を活かした資金調達を行い、今後の利益の源泉となる優良な大型販売用不動産を取得いたしました。一方で小規模販売用不動産の売却については株主価値の最大化を念頭に入れた交渉・売却を進めたことにより、収益獲得とともに戦略的な販売用不動産の棚卸シフトを実行いたしました。また保有不動産物件の賃貸・管理運営売上においても順調に推移いたしました。

セキュリティ事業におきましては、不動産市況が悪化し主たる営業エリアである関東地域での不動産新規着工件数が激減している影響はあったものの、引き続き防犯設備に対する高いニーズに支えられ、マンション、商業ビル、オフィス、店舗（服飾、飲食、娯楽施設等）、工場・倉庫など多種多様な顧客への導入が進み、また今期から福岡営業所での新規顧客獲得もあり、堅調に当社システムの導入件数を伸ばしました。

この結果、当事業年度の業績におきましては、セキュリティリアルエステート事業における不動産物件の売却、セキュリティ事業の顧客拡大などが寄与したことにより、売上高は、4,621,979千円（前年同期比134,793千円（3.0%）の増加）を計上することができました。営業利益は1,890,389千円（前年同期比150,233千円（8.6%）の増加）、経常利益は1,812,326千円（前年同期比6,051千円（0.3%）の増加）と増益を確保しました。当期純利益は、前期において繰越欠損金の一掃がなされたため税負担が増加したため、1,075,103千円（前年同期比317,033千円（22.8%）の減少）となりました。これにより1株当たり当期純利益は、2,203円98銭となりました。

なお、平成19年5月1日に1株につき2株の割合をもって株式分割を行ったことにより発行済株式の総数が増加しております。

### 事業部門別売上高

（単位：千円）

区 分	第20期(当期) (平成20年3月期)	
	金 額	構成比
セキュリティリアルエステート販売事業	4,112,040	89.0%
バ リ ュ ー ア ッ プ 事 業	509,939	11.0
合 計	4,621,979	100.0

(注) バリュアアップ事業はセキュリティ事業およびセキュリティリアルエステート賃貸事業より構成されております。

#### (2) 設備投資等の状況

特記事項はありません。

#### (3) 資金調達の状況

当社はセキュリティリアルエステート事業における資金の機動的かつ効率的な調達を行う目的をもって、取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結しております。なお、当期末における借入実行残高は50億円となります。

コミットメントラインの総額 5,000,000千円

借入実行残高 5,000,000千円

差引額 一千円

#### (4) 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況

該当する事項はありません。

#### (5) 他の会社の事業の譲受けの状況

該当する事項はありません。

(6) 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当する事項はありません。

(7) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況

該当する事項はありません。

(8) 対処すべき課題

当社は今後対処すべき課題として次のことを考えており、進捗状況として、当期までに以下の取り組みを実施または着手しています。

① 顧客の開拓について

当社の中核であるセキュリティ事業を継続的に成長させるためにはデジタルセキュリティシステムを導入する顧客の開拓が必要ですが、これらの顧客層はコンシューマが中心であった当社の既存顧客層と異なり、収益ビルのオーナーや管理会社、フランチャイズチェーン店、倉庫、工場等の企業が中心となります。そのためセキュリティシステムの知識を持った優秀な営業人員を拡充し、顧客層と有力なコネクションを持つ企業と販売代理店契約を結ぶことなど、顧客の開拓が重要であると考えています。

② 研究・開発技術の拡充について

当社は今後とも市場の変化を的確に捉え、特定のOSに依存しないマルチプラットフォーム上で動作可能なアプリケーションの開発・供給を行っています。また、デジタルセキュリティシステムおよびWebサーバセキュリティシステムの高機能化や低価格化実現のため、最新のASP技術の開発を推進してまいります。そのためには、今まで以上に優秀な研究開発者による充実した研究開発活動が必要であると考えています。

③ 積極的な提携、M&Aについて

当社のさらなる売上・収益の拡大を図り経営基盤の安定を図る上で新規事業を展開していきますが、その為に当社経営理念、経営計画に合致するとともに当社事業とのシナジーが期待できる優良事業を持つ企業との提携、M&A等の手段を活用し、積極的に推し進めてまいります。

④ 不動産物件の仕入について

当社の業績において売上金額比率が高くなっているセキュリティリアルエステート事業において、優良不動産物件の取得を行うことが不可欠であります。翌期におきましては、これまで蓄積してきた市場性を見極めた物件取得力を強化、より収益を生む不動産案件を選択し、適正価格で取得できるように努めてまいります。

⑤ 資金調達について

当社が安定的に成長していく過程において、不動産物件購入のための多額の資金が必要であり、今後も資金調達の強化、調達方法の多様化に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(9) 財産および損益の状況の推移

項 目 \ 期 別	第 17 期 (平成17年3月期)	第 18 期 (平成18年3月期)	第 19 期 (平成19年3月期)	第20期(当期) (平成20年3月期)
売 上 高	245,919千円	1,026,639千円	4,487,186千円	4,621,979千円
経 常 利 益	106,347千円	348,479千円	1,806,274千円	1,812,326千円
当期純利益または純損失(△)	△552,726千円	387,784千円	1,392,136千円	1,075,103千円
1株当たり当期純利益 または純損失(△)	△2,266円20銭	1,589円93銭	5,707円82銭	2,203円98銭
総 資 産	5,588,724千円	5,858,981千円	7,292,017千円	13,281,931千円
純 資 産	5,586,448千円	5,854,721千円	7,083,453千円	7,475,636千円
1株当たり純資産	22,904円67銭	24,004円60銭	29,042円45銭	15,325円21銭

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれていません。  
 2. 平成16年3月11日開催の当社取締役会において、平成16年5月20日付をもって、平成16年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主に対し、普通株式1株を3株に分割することを決議いたしました。この株式分割により発行済株式総数は32,520株増加しました。  
 3. 平成16年8月30日開催の当社取締役会において、平成16年11月19日付をもって、平成16年9月30日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主に対し、普通株式1株を5株に分割することを決議いたしました。この株式分割により発行済株式総数は195,120株増加しました。  
 4. 平成18年4月1日をもって子会社である株式会社アロンエステートを吸収合併しましたので、第19期から単体のみの財務内容となっております。  
 5. 平成19年4月2日開催の当社取締役会において、平成19年5月1日付をもって、平成19年4月30日(ただし、当日、前日および前々日は株主名簿管理人の休業日につき、実質上は、平成19年4月27日)最終の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主に対し、普通株式1株を2株に分割することを決議いたしました。この株式分割により発行済株式総数は243,900株増加しました。

[第17期]

第17期はソフトウェア事業を営業譲渡し、セキュリティ事業も順調に売上を伸ばすことができ売上高は10.2%の増収となりました。また、経常利益も子会社の株式会社アロンエステートからの受取利息等営業外収益を加え10.6%の増益となりましたが、子会社の株式会社アイメディアの清算に伴い子会社整理損を計上したため当期純損失は552,726千円となりました。

[第18期]

第18期はセキュリティ事業における顧客導入が順調に推移し、また不動産売却などにより売上高は、317.5%と大幅な増収となりました。さらに製造原価や販売費および一般管理費の効率化により経常利益は227.7%の増益、当期純利益においても387,784千円と黒字化しました。

[第19期]

第19期は、引き続きセキュリティ事業の順調な顧客導入やセキュリティリアルエステート事業における不動産物件の売却などにより、売上高は337.1%と大幅な増収となりました。これに伴い経常利益は418.3%の増益、当期純利益に関しましては、過去に計上した繰越欠損金により法人税等を減少させる効果が約4億円あったため当期純利益に対する法人税等の負担が小さく、1,392,136千円と大幅な増益となりました。

[第20期]

第20期は、前記「(1) 事業の経過およびその成果」に記載のとおりであります。

(10) 主要な事業内容

事業	主要製品
セキュリティリアルエステート販売事業	セキュリティシステムを導入した不動産物件の売買、管理、仲介、サブリース、デューデリジェンス
バリューアップ事業	セキュリティ事業およびセキュリティシステムを導入した不動産物件の賃貸
その他の事業	不動産担保融資、プロジェクトファイナンス、その他セキュリティリアルエステート事業に関するテナントおよび売却先向け金融サービス

(11) 主要な営業所および工場

名称	所在地
本店	東京都港区赤坂九丁目7番2号

(12) 従業員の状況

従業員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
13名	1名増	40.0歳	3.4年

(注) 従業員数は就業人員数であり、臨時従業員はおりません。

(13) 主要な借入先の状況

借入先	借入額
株式会社みずほ銀行	5,000,000千円

(注) 当社はセキュリティリアルエステート事業における資金の機動的かつ効率的な調達を行う目的をもって、取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結しております。

当事業年度末におけるコミットメントライン契約に係る借入金未実行残高は以下のとおりであります。

コミットメントラインの総額	5,000,000千円
借入実行残高	5,000,000千円
差引額	一千円

## 2. 会社の株式に関する事項

- (1) 発行済株式の総数 487,800株  
(2) 株 主 数 10,186名  
(前期末比2,244名増)  
(3) 大 株 主

株 主 名	持 株 数
永 田 典 久	239,440株
株 式 会 社 ブ リ ス	31,590
大 塵 純	8,910
バンクオブニューヨークジーシーエムクライアントアカウント ジェイピーアールディアイエスジーエフイーエイシー	3,082
渡 邊 雅 良	2,950
迫 修	2,402
み ず ほ キ ャ ピ タ ル 株 式 会 社	2,400
エイチエスピーシーファンドサービスィズ ク ラ イ ア ン ツ ア カ ウ ン ト 0 0 6	2,076
鈴 木 互	1,875
野 村 證 券 株 式 会 社	1,872

### (4) その他株式に関する重要な事項

平成19年4月2日開催の取締役会決議に基づき、平成19年5月1日に1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。これにより発行済株式の総数が243,900株増加しております。また、会社法第184条第2項の規定により、同取締役会において定款変更決議を行い、平成19年5月1日をもって発行可能株式総数を975,600株から1,951,200株に変更しております。

## 3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当する事項はありません。

#### 4. 会社役員に関する事項

##### (1) 取締役および監査役の氏名等

氏 名	地位および担当	他の法人等の代表状況等
永 田 典 久	取締役社長 (代表取締役)	株式会社ブリス代表取締役社長
高 橋 祐 輔	専務取締役 (セキュリティリアルエステート事業部長)	
田 中 和 世	専務取締役	
渡 邊 雅 良	取 締 役	
天 笠 勝	常勤監査役	
早 川 裕 司	監 査 役	
渡 邊 守	監 査 役	

- (注) 1. 監査役早川裕司および渡邊守両氏は、社外監査役であります。  
2. 監査役天笠勝氏は、税理士の資格を有しており、税務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。

##### (2) 取締役および監査役の報酬等の額

取締役3名 40,300千円

監査役3名 11,194千円 (うち社外 2名 4,695千円)

- (注) 期末現在の人員数は取締役4名、監査役3名であります。なお、上記の支給人員との相違は、無報酬の取締役1名が在任していることによるものであります。

##### (3) 社外役員に関する事項

###### ① 他の会社の業務執行取締役等の兼任状況

監査役早川裕司および渡邊守両氏に、該当する事項はありません。

###### ② 当該事業年度における主な活動状況

(ア) 取締役会等への出席状況および発言状況

区 分	氏 名	出席状況および発言状況
監 査 役	早 川 裕 司	当事業年度開催の取締役会および監査役会の全てに出席し、疑問点等を明らかにするため適宜質問し、意見を述べております。
監 査 役	渡 邊 守	当事業年度開催の取締役会および監査役会の全てに出席し、必要に応じ、社外の立場から適宜質問および意見を述べております。

##### (イ) 責任限定契約の内容の概要

当社は、現行定款において、社外監査役の責任限定に係る契約の締結に関する事項を定めておりません。



## 5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称  
清和監査法人

(2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

- |                            |          |
|----------------------------|----------|
| ① 当社の会計監査人としての報酬等の額        | 13,000千円 |
| ② 当社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 13,000千円 |

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておりませんので、①の金額には金融商品取引法に基づく監査の報酬等の額を含めて記載しております。

(3) 非監査業務の内容

該当する事項はありません。

(4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

当社では、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合には、監査役全員の合意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

なお、監査役会は会計監査人の継続監査年数等を勘案しまして、再任若しくは不再任の決定を行います。

## 6. 会社の体制および方針

(1) 取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制  
その他業務の適正を確保するための体制

当社は、平成18年5月18日開催の取締役会において内部統制システム構築の基本方針を決議し、その後一部改定いたしました。基本方針は下記のとおりとなっております。

1. 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

(ア) 取締役および従業員の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するために、社長をコンプライアンス担当役員、業務管理部をコンプライアンス担当部署と位置づける。

(イ) コンプライアンス・ガイドを整備することで、取締役、従業員の行動規範とし、企業倫理、法令順守、透明性のある経営を重視する企業文化の浸透を徹底する。

- (ウ) 社内組織をシンプルにし、透明性を極限まで高めることで、事業運営、職務執行、取引・契約等の中で法令違反・不正が介在できない体制を維持する。例えば重要な契約書・決裁書・稟議書等は全取締役、監査役が常に閲覧できる、取締役、従業員全員の経費使用状況を社内LANで公開するなどである。
- (エ) コンプライアンス担当役員、監査役を窓口とした、職務執行の法令順守に関する相談・報告経路の整備を行う。
- (オ) 社会の秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対しては、組織全体として毅然とした態度で対応し、取引関係その他一切の関係を持たない体制を整備する。

2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理については、文書規定等の社内規定の定めに基づき執り行う。

3. 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

ほぼ全取締役、監査役が出席し、頻繁に開催される取締役会、部長会にて想定されるリスクに対しての検討・対応を協議し、必要な場合には適宜迅速な対策を講じることをリスク管理体制の基礎とする。不測の事態が発生した場合には、社長を本部長とする対策本部を設置し、顧問弁護士を含む外部アドバイザーチームを組織して迅速な対応を行い、損害の拡大を防止しこれを最小限にとどめるよう努力する。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

経営の基本方針その他重要事項を決定する取締役会を毎月1回以上開催する。

社長以下全取締役および全監査役が出席する部長会を毎月2回以上開催し、事業環境の分析、利益計画の進捗状況など情報の共有化、コンプライアンスの徹底を図るとともに、迅速かつ効率的な意思決定を行う。

取締役の職務執行の権限・責任については職務分掌規定、職務権限規定等の社内規定において詳細に定め、効率的に職務の執行が行える体制をとっている。

5. 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

コンプライアンス・ガイドを子会社においても周知徹底させるとともに、子会社の取締役もしくは監査役を当社から派遣し、子会社の職務執行の監視・監督を行う。

また、子会社の経営についてはその自主性を尊重しつつ、事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行う。

6. 監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合における当該従業員に関する事項  
監査役がその職務を補助すべき従業員を置くことを求めた場合においては、当社の従業員を任命する。
  7. 前号の従業員の取締役からの独立性に関する事項  
前号の従業員については、取締役からの独立性を確保するために、任命、解任、人事異動については監査役会の同意を必要とする。
  8. 取締役および従業員が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制  
監査役は取締役会、部長会の他、重要な会議に出席し、意思決定の過程を把握するとともに、意見を表明することができる。また主要な稟議書、決裁書等重要な書類を閲覧し、取締役および従業員の説明を受けることができる。  
取締役および従業員が、法令、定款、その他社内規則への違反、および不正な行為を知ったときは速やかに監査役に報告する。
  9. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制  
監査役は当社の全取締役とは取締役会などを通じ頻繁に情報の共有、意見交換を行うとともに、会計監査人、顧問弁護士とも定期的に意見交換を行い、効果的な監査業務の遂行を図る。
  10. 財務報告の信頼性を確保するための体制  
当社は、財務報告の信頼性確保、および金融商品取引法第24条の4の4に規定する内部統制報告書の有効かつ適切な提出のため、代表取締役社長の指示の下、内部統制システムの構築を行い、その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し必要な是正を行うとともに、金融商品取引法およびその他関係法令等との適合性を確保する。
- (2) 株式会社の支配に関する基本方針  
当社では、会社の財務および事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針については、特に定めておりません。

## 貸借対照表

(平成20年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>13,166,588</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>5,741,887</b>
現金及び預金	2,558,542	短期借入金	5,000,000
売掛金	31,290	未払金	9,400
販売用不動産	10,519,594	未払費用	55,928
前払費用	4,552	前受金	17,965
繰延税金資産	52,129	未払法人税等	639,310
その他	478	その他	19,281
<b>固 定 資 産</b>	<b>115,343</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>64,407</b>
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>62,122</b>	預り保証金	64,407
建物	9,333	<b>負 債 合 計</b>	<b>5,806,294</b>
車両運搬具	7,232	<b>純 資 産 の 部</b>	
工具器具備品	14,780	<b>株 主 資 本</b>	<b>7,475,636</b>
建設仮勘定	30,776	資本金	2,346,750
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>7,139</b>	資本剰余金	3,120,187
ソフトウェア	369	資本準備金	2,755,812
ソフトウェア仮勘定	5,704	その他資本剰余金	364,374
電話加入権	1,066	<b>利 益 剰 余 金</b>	<b>2,008,699</b>
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>46,080</b>	その他利益剰余金	2,008,699
敷金・保証金	45,618	繰越利益剰余金	2,008,699
繰延税金資産	462	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>7,475,636</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>13,281,931</b>	<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>13,281,931</b>

## 損 益 計 算 書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売 上 高		4,621,979
売 上 原 価		2,379,078
売 上 総 利 益		2,242,900
販売費及び一般管理費		352,511
営 業 利 益		1,890,389
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	5,411	
未払配当金除斥益	685	
そ の 他	518	6,615
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	53,905	
コミットメントライン手数料	20,000	
有価証券売却損	10,772	84,677
経 常 利 益		1,812,326
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	566	566
税引前当期純利益		1,811,760
法人税、住民税及び事業税	763,818	
法人税等調整額	△27,161	736,656
当 期 純 利 益		1,075,103

## 株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本			
	資 本 金	資 本 剰 余 金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
平成19年3月31日残高	2,346,750	2,755,812	364,374	3,120,187
事業年度中の変動額				
剰余金の配当	—	—	—	—
当期純利益	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—
平成20年3月31日残高	2,346,750	2,755,812	364,374	3,120,187

	株 主 資 本			純 資 産 合 計
	利 益 剰 余 金		株 主 資 本 合 計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
平成19年3月31日残高	1,616,516	1,616,516	7,083,453	7,083,453
事業年度中の変動額				
剰余金の配当	△682,920	△682,920	△682,920	△682,920
当期純利益	1,075,103	1,075,103	1,075,103	1,075,103
事業年度中の変動額合計	392,183	392,183	392,183	392,183
平成20年3月31日残高	2,008,699	2,008,699	7,475,636	7,475,636

## 個別注記表

(継続企業の前提に関する注記)

該当する事項はありません。

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のないもの……………移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準および評価方法

販売用不動産・仕掛販売用不動産…個別法による原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……………主として法人税法に規定する旧定率法を採用しております。

なお、耐用年数および残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

建 物 10～18年

車 両 運 搬 具 2～6年

工 具 器 具 備 品 4～20年

無形固定資産……………社内利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

3. 引当金の計上基準

貸倒引当金……………個別の債権の回収可能性を検討して回収不能見込額を計上しています。

当事業年度において引当金計上はありません。

4. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

ソフトウェアの会計処理……………販売用ソフトウェアの制作費は全て研究開発費であり、当期製品製造原価（売上原価）として期間費用処理しています。

消費税等の会計処理……………消費税等の会計処理は税抜方式によっています。

(会計処理の変更)

固定資産の減価償却方法の変更

当事業年度から、法人税法の改正（(所得税法等の一部を改正する法律 平成19年3月30日 法律第6号) および（法人税法施行令の一部を改正する政令 平成19年3月30日 政令第83号））に伴い、平成19年4月1日以降に取得したものについては、改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

(表示方法の変更)

「未払法人税等」は、前事業年度まで流動負債の「その他」に含めて表示していましたが、当事業年度において負債および純資産の合計額の百分の一を超えたため区分掲記しております。なお、前事業年度の「未払法人税等」の金額は53千円であります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産の減価償却累計額 55,660千円

2. コミットメントライン契約

当社はセキュリティリアルエステート事業における資金の機動的かつ効率的な調達を行う目的をもって、取引銀行1行とコミットメントライン契約を締結しております。当事業年度末におけるコミットメントライン契約に係る借入金未実行残高は以下のとおりであります。

コミットメントラインの総額 5,000,000千円  
借入実行残高 5,000,000千円  
差引額 一千円

(損益計算書に関する注記)

該当する事項はありません。

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度末	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	243,900	243,900	—	487,800

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

1株につき2株の割合をもって行った株式分割による新株の発行による増加  
243,900株

2. 剰余金の配当に関する事項

当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成19年6月15日 定時株主総会	普通株式	414,630	1,700	平成19年3月31日	平成19年6月18日
平成19年10月15日 取締役会	普通株式	268,290	550	平成19年9月30日	平成19年12月10日

当事業年度の末日後に行う剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月12日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	268,290	550	平成20年 3月31日	平成20年 6月13日



(税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因の内訳

流動資産

一括償却資産等	3,477千円
事業税	48,259千円
その他	392千円
繰延税金資産計	52,129千円

固定資産

一括償却資産等	202千円
控除対象外消費税	260千円
繰延税金資産計	462千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

該当する事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

属性	会社等の名称	住所	資本金又は出資金(千円)	事業内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社等	㈱ブリス*1	東京都港区	10,000	投資業	被所有 直接 6.47	兼任 1名	販売用不動産の賃貸	販売用不動産の取得	1,886,500	—	—
								賃貸料及び水道光熱費の受取	76,986	前受金	4,357
								賃貸契約にかかる敷金	16,600	預り保証金	16,600

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件および取引条件の決定方針等

①販売用不動産の売買価格については、第三者の鑑定評価等に基づき決定しております。

②賃貸料については、近隣の適正賃料を勘案し、決定しております。

3. \*1の会社は、当社代表取締役永田典久が議決権の100%を自己の計算において所有している会社であります。

(1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額	15,325円21銭
2. 1株当たり当期純利益	2,203円98銭

(重要な後発事象に関する注記)  
該当する事項はありません。

(連結配当規制適用会社に関する注記)  
該当する事項はありません。

(その他の注記)  
該当する事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成20年 5 月15日

株式会社メッツ  
取締役会 御中

**清和監査法人**

指 定 社 員 公 認 会 計 士 笥 悦 生 ㊞  
業 務 執 行 社 員  
指 定 社 員 公 認 会 計 士 江 黒 崇 史 ㊞  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社メッツの平成19年4月1日から平成20年3月31日までの第20期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 監査役会の監査報告書 謄本

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成19年4月1日から平成20年3月31日までの第20期事業年度の取締役の職務の執行に関して各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況を監視及び検証いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第159条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人清和監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成20年5月22日

株式会社メ ッ ツ 監 査 役 会  
常勤監査役 天 笠 勝 ㊟  
社外監査役 早 川 裕 司 ㊟  
社外監査役 渡 邊 守 ㊟  
以 上

以 上

# 株主総会参考書類

## 議案および参考事項

### 第1号議案 剰余金の処分の件

剰余金の処分につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

#### 期末配当に関する事項

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要な課題の一つとして位置づけております。

また、将来の事業展開に備え内部留保の充実を図りながら、株主の皆様に対し積極的な利益還元を行ってまいりたいと考えており、長期的に安定した配当を維持するとの方針に基づき、以下のとおりといたしたいと存じます。

なお、中間配当として1株につき550円をお支払いしておりますので、当期の年間配当金は1株につき1,100円となります。

#### (1) 配当財産の種類

金銭といたします。

#### (2) 株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額

当社普通株式1株につき、550円をお支払いさせていただきたく存じます。

なお、この場合の配当総額は、268,290,000円となります。

#### (3) 剰余金の配当が効力を生ずる日

平成20年6月13日

## 第2号議案 取締役4名選任の件

本総会終結の時をもって取締役全員（4名）が任期満了となり、取締役高橋祐輔氏はこの機に退任いたします。つきましては、取締役4名の選任をお願いしたいと存じます。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位および担当 (他の法人等の代表状況)	所有する 当社の株式数	当社との 特別の 利害関係
1	永田典久 (昭和36年4月19日生)	昭和63年7月 当社設立 代表取締役社長 平成15年6月 当社代表取締役会長 平成16年6月 当社代表取締役会長退任 平成17年2月 ㈱ブリス設立 代表取締役 (現在に至る) 同年4月 当社相談役 平成18年9月 当社相談役退任 平成19年2月 当社代表取締役社長 (現在に至る)	239,440株	なし
2	田中和世 (昭和40年2月12日生)	昭和63年7月 当社入社製品販売業務担当 平成3年2月 当社取締役業務管理部長 平成10年2月 当社専務取締役 平成15年3月 当社取締役辞任 同 ㈱ハーフアンドハーフ代表取締役 平成19年1月 同社代表取締役辞任 同年2月 当社専務取締役 (現在に至る)	620株	なし
3	渡邊雅良 (昭和41年12月20日生)	平成7年3月 当社入社プログラマー 平成8年5月 当社取締役開発部長 平成18年6月 当社取締役退任 同 当社技術顧問就任 平成19年2月 当社取締役 (現在に至る)	2,950株	なし

候補者 番号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、地位および担当 (他の法人等の代表状況)	所 有 す る 当社の株式数	当社との 特別の 利害関係
4	※ 山 口 雅 幸 (昭和40年12月9日生)	平成元年4月 オリックス(株)入社 平成14年7月 (株)モルガン・スタンレー・プロパティーズ・ジ ャパン (現モルガン・ス タンレー・キャピタル (株) 入社 平成15年12月 (株)ファンドクリエーショ ン入社 同社執行役員投資運用部 長 平成16年4月 同社常務執行役員不動産 運用部長 平成17年8月 SBIホールディングス(株) 入社 SBIパートナーズ(株)へ出 向 同社執行役員プロジェク ト事業開発部長 平成18年8月 (株)フレグインターナシ ョナル入社 同社執行役員ジェネラル マネージャー 平成20年5月 当社入社 セキュリティリアルエス テート事業部長 (現在に至る)	50株	なし

(注) ※は、新任候補者であります。

以 上

# 株主総会会場ご案内図



## 会 場

東京都港区赤坂九丁目7番1号 東京ミッドタウン

ザ・リッツ・カールトン東京2F「グランドボールルーム」

電話番号 03-3423-8000

## 地下鉄

都営大江戸線・東京メトロ日比谷線「六本木駅」直結  
／東京メトロ千代田線「乃木坂駅」徒歩3分

## バス

「新橋駅」または「渋谷駅」より都営01系統にて  
「六本木駅前」下車、徒歩3分